

第1章. 2000年10月 スコウクロフト元空軍中將へのインタビュー

20年余り経つ今でも、「將軍」と呼ばれた一人の元米政府高官の言葉を忘れることができない。彼の名はブレント・スコウクロフト元中將。1989年に就任したジョージ・H・W・ブッシュ大統領の安全保障担当補佐官を務め、その後、2001年には息子のジョージ・W・ブッシュ政権の大統領情報活動諮問会議（PIAB）の議長となった。学究肌の人で、2001年9月11日の同時多発テロ後、アフガニスタン侵攻は支持したが、イラク戦争には反対したことでも知られる。

2000年11月の米大統領選は荒れに荒れた。ブッシュ氏とクリントン政権のアル・ゴア副大統領が闘い、米国の憲政史上百数十年ぶりに11月の投票日に新大統領が決まらず、1ヵ月以上も空白状態が続いた。当時コンサルティング会社の代表をしていたスコウクロフト氏とインタビューしたのは大統領選の1ヵ月前の2000年10月のことだった。大統領選の見通しと新政権の課題などを聞くのが狙いだった。今後のアメリカ外交の舵取りを探るため、欧州や中東などを訪問して帰国したばかりの時だった。

スコウクロフト氏はいつになく強い口調で「私はだれが新大統領になっても今、中東で起きていることを伝えなければならない」と話し始めた。一体何が起きているのか、そう問いかけると「中東のイスラム原理主義と反米主義が結びついた新たな動きが起きている」と語った。イスラム原理主義も、反米主義も以前からあるが、その2つが合体したことは今までなかったという。「アメリカの将来にとって危険な動きであり、共和党でも民主党でもとにかく新大統領にこのことを伝えなければならない」と話した。普段は冷静沈着で、口数の多い人ではなかったが、この時は強い思いを一気に吐き出したという感じだった。

当時のアメリカは「世界で唯一の超大国」であり、本格的な「ボックス・アメリカーナの時代」が始まったと多くの人が思っていた。1989年にベルリンの壁が崩れ落ち、1991年には旧ソ連邦が崩壊した。それから10年が経ち、もはや旧ソ連の復活はないという時代認識が一般的だった。中国はいまだ発展途上であり、軍事力もアメリカのライバルにはほど遠かった。これからアメリカが最も豊かで最も強力な国として世界に君臨していくものと、アメリカ自身も海外の国々も考えていた。ブッシュ新大統領は就任早々、「アメリカはもう世界の警察官役から降りる。世界はアメリカという警察官がいなくても平和にやっていける時代になった」と内外に宣言した。